

第178回森で遊ぶ会「駿府城公園の樹木観察会」

日時：令和3年5月25日（火） 9:30～11:30

場所：静岡市葵区 駿府城公園

参加者：男性3名 女性19名 合計22名

担当幹事：杉山、小嶋

アシスト会員：青野、大石、越智、小久保、高橋、早川、矢下

例年に比べて早い梅雨入りで天気予報に注目しながらの毎日でしたが、当日は思ってもいない晴天に恵まれ逆に熱中症の心配が必要となりました。駿府城公園の樹木観察会は過去にも数回実施していましたが、今回は初めて「紅葉山庭園」にも入園して人工の庭園の中での植物も観ていただきました。またコロナ禍の中での観察会となりましたので、参加者を3人程度のグループとして1グループに1名のインストラクターを配置し、《密》を作らないよう工夫をしました。それでは、観察会の様子を振り返ってみます。

《観察会の様子》

コースは、巽櫓入り口前の休憩所から南側の堤を眼下にお堀を見ながら歩き、紅葉山庭園に入りました。その後のコースについては各グループのインストラクターに任せました。各インストラクターは、それぞれの得意分野の話などで参加者を楽しませてくれたことと思います。各インストラクターからの報告をもとに当日の様子を報告いたします。

今回の参加者はベテランの物知り博士が多くいらしたようです。例えば、集合場所の目の前にあるシマトネリコの名前の由来について、「樹皮につくカイガラムシの分泌物である白蠟（トネリ）を敷居に塗ると滑りが良くなるので、戸塗木から来た」という説を紹介すると、ベテラン参加者からはすかさず『沖縄の方の島蠟がふるさとですね。』と補足説明をいただきました。また「ハマヒサカキの葉がヒサカキよりてかてかしている理由は?」と尋ねると、『潮風から身を守るためね。』といった具合で、先刻お見通しでした。そこで、インストラクターも負けずにはられません。スマホのカメラに接写レンズを付けて、クロガネモチやソヨゴの雄花と雌花の違いを拡大して観ていただきました。参加者も『なるほど、可愛い!』...そんな具合で、ここは腕の見せ所ですね。

“フタバアオイの道”にフタバアオイが見られないのは生育環境のせいであることを説明し、紅葉山庭園の中でその環境を見ていただきました。『徳川家の家紋が三つ葉葵だが、食べるミツバの形とは違うので意味が分からない』との質問には、アオイの葉3枚を図案化したもので日本の家紋は植物などを図案化したものが多いことを説明し、同じ三つ葉葵でも徳川宗家と分家では違うことも付け加えました。また、銀座の柳の前では、たっぷり時間をかけて初代から3代目の2世柳までの遍歴を話し、加えて東京行進曲にまつわるエピソードも紹介

しました。4番の歌詞に『小田急』（♪いっそ小田急で逃げましょか…♪）が出てくるのですが、そのころの社名は『小田急』ではなく『小田原急行鉄道』でした。歌がヒットした後で『小田急電鉄』に社名変更したとのこと。社名に関して、作詞家の西城八十が小田急から怒られたり、感謝されたり、なんと永久乗車券を送られたとか…そんな雑学が大うけしたとのことでした（雑学は大事だね）。

駿府城公園の歴史に詳しいインストラクターは、紅葉山庭園はもともと駿府城本丸の別の場所にあったことや、江戸城にも紅葉山庭園があったことも説明しました。エノキの木陰の下で休憩しながら、江戸時代の東海道の一里塚にエノキが植えられていたことも話しました。この日の紅葉山庭園の中での目玉は何と言っても『マツグミ』でしょう。マツグミはマツ、モミ、ツガなどの針葉樹に寄生するヤドリギ科の珍しい植物です。経験豊富なインストラクター達も、他で見たことが殆どありません。ここでも、植物に詳しい参加者からは『あっ、これがマツグミなの？ ず〜と、これが見たかったの!』との声があがりました。赤い実が付いており、それを少し試食してみました。口に入れてみると種の周りはゼリー状で少し甘かったです。庭園の中ではオオバギボウシの花が見ごろでしたが、東北地方では春に若いものを山菜（ウルイ、ギンポ）として食すこと、また近年静岡でもスーパーマーケットで売っていること、そしてその食べ方についても説明しました。

北側の堤ではテイカカズラの白い花がちょうど見ごろでした。エゴノキの花は終わりかけ、一方ナツツバキはまだ蕾のものが多かったのですが、1輪だけ花が咲いているのが観られて歓声が沸きました。最後に公園の中央部で見ごたえがあったのは、ポプラ、シナサワグルミ、ホルトノキ、トキワギョリュウ、コウヨウザンなどでした。公園に植えられていたタチアオイが、梅雨時にすがすがしい花を咲かせていたのが印象的でした。

（報告まとめ 小嶋）

次ページにスナップ写真を掲載

